

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第7区分

【発行日】平成20年4月3日(2008.4.3)

【公開番号】特開2007-210712(P2007-210712A)

【公開日】平成19年8月23日(2007.8.23)

【年通号数】公開・登録公報2007-032

【出願番号】特願2006-29952(P2006-29952)

【国際特許分類】

B 6 6 B 13/28 (2006.01)

B 6 6 B 13/12 (2006.01)

B 6 6 B 13/30 (2006.01)

【F I】

B 6 6 B 13/28 B

B 6 6 B 13/12 A

B 6 6 B 13/30 M

【手続補正書】

【提出日】平成20年2月20日(2008.2.20)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

昇降路内に昇降自在に配設されたかごと、

上記かごの着床時に、乗り場側敷居に対して水平方向に所定の隙間を有して対向するよう^に該かごに設けられたかご側敷居と、

かご側戸の乗り場側壁面の上部側に配設された係合部材と、

上記かごの着床時に上記係合部材に係合するように乗り場側戸のかご側壁面に配設され、該係合部材と係合して上記かご側戸の開閉力を該乗り場側戸に伝達する被係合部材と、
鉛直方向から見て上記被係合部材を内包するように上記かご側敷居に形成された乗り場側に開口する切り欠きと、

上記切り欠き内に位置し、かつ、その反乗り場側端部を軸方向を上記かご側戸の開閉方向とする軸に回動自在に支持されて上記かご側敷居に取り付けられ、上記かご側敷居の上面と同一面位置となって上記切り欠きを閉塞する作動位置とその乗り場側端部を下方にするように上記軸周りに回動して鉛直方向から見て上記被係合部材と重ならない退避位置との間を移動する可動敷居と、

上記可動敷居と上記かご側敷居との間に配設されて、該可動敷居を上記軸周りに回動させて上記作動位置に位置させるように付勢する復帰ばねと、

上記かご側戸の開閉力を上記可動敷居に伝達するワイヤを有し、戸閉時には、上記復帰ばねの付勢力に抗して上記可動敷居を上記作動位置から上記退避位置に移行するよう上記軸周りに回動させ、戸開時には、上記復帰ばねの蓄勢力を放勢させて上記可動敷居を上記退避位置から上記作動位置に移行するよう上記軸周りに回動させる可動敷居駆動機構と、を備え、

上記可動敷居は、戸全閉直前と戸全閉状態との間の戸開閉時に、上記作動位置から上記退避位置に、又は上記退避位置から上記作動位置に移行するよう上記軸周りに回動され、戸全閉直前と戸全開状態との間の戸開閉時には、上記作動位置に保持されることを特徴とするエレベータ装置。

【請求項 2】

上記かご側敷居に設けられた係合穴と、

上記ワイヤの端部に連結されて上記可動敷居に出没自在に設けられ、上記可動敷居から延出して上記係合穴に挿入されて該可動敷居の上記軸周りの回動を規制して該可動敷居を上記作動位置に保持し、上記可動敷居内に埋没して該係合穴から抜けて該可動敷居の上記軸周りの回動規制を解除とする係止ピンと、

上記係止ピンを延出するように付勢するスプリングと、を備え、

上記係合ピンは、戸開動作において、上記かご側戸が上記戸全閉直前に到達したときに、上記スプリングの付勢力により上記可動敷居から延出して上記係合穴に挿入されて上記可動敷居の上記軸周りの回動を規制し、戸閉動作において、上記かご側戸が上記戸全閉直前に到達したときに、上記スプリングの付勢力に抗して上記可動敷居内に埋没して上記係合穴から引き抜かれて上記可動敷居の上記軸周りの回動規制を解除することを特徴とする請求項1記載のエレベータ装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

この発明によるエレベータ装置は、昇降路内に昇降自在に配設されたかごと、上記かごの着床時に、乗り場側敷居に対して水平方向に所定の隙間を有して対向するように該かごに設けられたかご側敷居と、かご側戸の乗り場側壁面の上部側に配設された係合部材と、上記かごの着床時に上記係合部材に係合するように乗り場側戸のかご側壁面に配設され、該係合部材と係合して上記かご側戸の開閉力を該乗り場側戸に伝達する被係合部材と、鉛直方向から見て上記被係合部材を内包するように上記かご側敷居に形成された乗り場側に開口する切り欠きと、上記切り欠き内に位置し、かつ、その反乗り場側端部を軸方向を上記かご側戸の開閉方向とする軸に回動自在に支持されて上記かご側敷居に取り付けられ、上記かご側敷居の上面と同一面位置となって上記切り欠きを閉塞する作動位置とその乗り場側端部を下方にするように上記軸周りに回動して鉛直方向から見て上記被係合部材と重ならない退避位置との間を移動する可動敷居と、上記可動敷居と上記かご側敷居との間に配設されて、該可動敷居を上記軸周りに回動させて上記作動位置に位置させるように付勢する復帰ばねと、上記かご側戸の開閉力を上記可動敷居に伝達するワイヤを有し、戸閉時には、上記復帰ばねの付勢力に抗して上記可動敷居を上記作動位置から上記退避位置に移行するように上記軸周りに回動させ、戸開時には、上記復帰ばねの蓄勢力を放勢させて上記可動敷居を上記退避位置から上記作動位置に移行するように上記軸周りに回動させる可動敷居駆動機構とを備えている。そして、上記可動敷居は、戸全閉直前と戸全閉状態との間の戸開閉時に、上記作動位置から上記退避位置に、又は上記退避位置から上記作動位置に移行するように上記軸周りに回動され、戸全閉直前と戸全開状態との間の戸開閉時には、上記作動位置に保持される。